

広報常任委員会視察報告

案浦 兼敏

1 視察日程

(1) 神奈川県開成町議会

令和6年11月1日(金) 午前10時～11時30分

(2) 神奈川県山北町議会

令和6年11月1日(金) 午後1時30分～午後3時

2 視察報告

(1) 開成町議会

① 開成町の概況

- ・ 神奈川県の西部に位置し、町の面積が6.55km²で、東日本で最も面積が小さい町である。
- ・ 人口は、18,767人(令和6年6月1日)で、小田急線の開成駅があり交通の便が良いことから、昭和30年の町制施行以来毎年、人口が増加している。年少人口割(14.8%)も県内1位で、若い子育て世代に選ばれる町となっている。

令和6年度の当初予算総額130億2797万円、議員定数は12名である。

② 調査結果の概要

○議会改革として

①通年の会期制、②日曜議会、③議会ICT化の推進、④議会映像のインターネット配信、⑤議会報告会、⑥議場を自習室として一般開放に取り組んでいる。

○議会広報改革として

- ・ 「読む」から「見る＝魅せる」改革として

議会広報紙「ギカイだより」の改革と議会ウェブサイトを開成4年9月に開設し、広報紙とウェブサイトの両輪で広報改革を進めている。

- ・ ギカイだより改革については、令和3年8月号(207号)から「一人でも多くの町民に、まずは手に取ってもらいたい」との信念を持ち、毎号デザインや構成に変化をつけて発行。(207号が令和3年度全国町村議会広報コンクールで奨励賞を受賞)

また、サイズを変えてさらに読みやすくということで、A4サイズからタブロイド判へ変更。

- ・ 多様な動画を取り入れて、「読むウェブサイト」から「見るウェブサイト」とするため、議会独自のウェブサイトを開成。(町のHPでは、容量が不足、情報にたどり着きまで3～4クリックが必要、「見やすさ・わかりやすさ・探しやすさ」の実現が難しい)

毎月変わるトップページムービー、コンテンツを整理し2クリックで得たい情報にたどり着く、色の組み合わせで視覚のバリアフリー化で全ての人に優しいユニバーサルデザインを実現した。

- ・ 広報広聴常任委員会(議長を除く11人)に広報分科会(町民に議会活動を広く伝える)と広聴分科会(広く町民の意見を聴く)を設置し、連携を図っている。

○取組みの成果としては

- ・議会だよりについて、賛否が届くようになった。
- ・YouTube の再生回数がリアルな反応として実感が持てるようになった。
- ・身近な議会となるために議員自らが動くことで「動き」を通じて発信することが浸透し、開かれた議会の実現につながっている。

③ 所感

- ・議員全員が広報広聴常任委員会（議長を除く 11 名）に所属し、広報分科会（町民に議会活動を広く伝える）と広聴分科会（広く町民の意見を聴く）に分かれ、連携しながら活動しているところは、我が町も参考とすべきである。
- ・「読むウェブサイト」から「見るウェブサイト」とするための取組（毎月変わるトップページムービーやコンテンツを整理し 2 クリックで得たい情報にたどりつく）ためには、議会独自のウェブサイトの開設が必要と思われた。

(2) 山北町議会

① 山北町の概況

- ・神奈川県西部に位置し、山梨県や静岡県とも接している。町域面積は、224.61 km²、人口 9325 人（令和 6 年 9 月 1 日）の町で、豊かな自然を活かした観光の町として、年間 150 万人が訪れている。
- ・令和 6 年度当初予算は 93 億 7900 万円で、議員定数は 12 名である。

② 調査結果の概要

- ・広報広聴委員会は、議長を除く 11 名で構成されており、デジタル班（広報）とアナログ班（広聴）に分かれている。

◎デジタル班の取組

○議会だよりの編集

- ・広報モニターを設置（広報紙の外部評価）
- ・QRコードを広報紙等に掲載し、HPへ呼び込む
- ・議会HPの充実を図っている。

○議会インターネットの録画配信

- ・議会 YouTube チャンネルを開設
- ・議会報告を YouTube で配信

（令和 4 年 12 月定例会〈一般質問〉から）

◎アナログ班の取組

○おしゃべりカフェ

- ・主催は、アナログ班（6 名）が中心
- ・隔月 20 日（土日祝も）13:30~15:30（令和元年 8 月 20 日から）
- ・町民が集まりやすい、駅前店舗やスーパー駐車場など
- ・各種団体との出張カフェも実施
- ・効果としては、議員と気軽に話せる機会として住民にも高評価であり、HPで

タイムリーな情報公開に努めている。

議員としても、一般質問に繋がるヒントが得られる。

早稲田大学マニフェスト大賞に入賞した。

◎読みやすい議会だよりづくり

・言語・文章については、小学4・5年生でもわかりやすい表現や見やすいフォントや写真の活用を図っている。

・表紙写真については、年間テーマを決め（令和5年・6年：アフターコロナを生き抜く町内事業者家族）、デジタル班担当者が撮影している。

・一般質問については、本人が作成し、文字数制限（300～350字）を設けるとともに、写真の活用、QRコードでYouTube動画へ呼び込むこととしている。

・広報モニターからの意見をもとに、特集ページ（議員や町民を登場させる、子ども向けページなど）を設けている。

◎広報モニター制度について

・令和2年4月からスタートし、3年目を迎えている。

任期2年で、町内6地区から11名を選出（公募）している。

・活動内容は、議会だより「議会のおと」についての年4回のアンケートへの協力と、意見交換会（年1回以上）への参加となっている。

・謝礼は、2,000円のクオカード（1年間）のみである。

③ 所感

山北町も、広報広聴委員会は、議長を除く11名で構成されおり、これをデジタル班（広報）とアナログ班（広聴）に分けていた。

QRコードを広報紙等に掲載し、HPへ呼び込むようにしており、議会HPの充実を図っている。

おしゃべりカフェの取組も、議会報告会とは異なり、町民との距離が近くなるなど、有効な広聴の手段と思われた。

読みやすい議会だよりについては

・小学4・5年生でもわかりやすい表現、見やすいフォント

・表紙写真は、年間テーマを決め、デジタル班担当者が撮影

・一般質問は、文字数制限（300～350字）のもと、本人が作成

・広報モニターの意見をもとに、特集ページを設ける

などの取組がなされており、参考になった。